

4月の食品値上げ 2798品目 年内初の値上げラッシュへ

「値上げ」一服に不透明感
年後半にラッシュ再燃の可能性

「食品主要 195 社」価格改定動向調査 — 2026 年 4 月



本件照会先

飯島 大介（調査担当）
帝国データバンク
東京支社情報統括部
03-5919-9343（直通）
情報統括部：tdb_jyoho@mail.tdb.co.jp

発表日

2026/03/31

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに
帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成して
おります。著作権法の範囲内でご利用いただき、
私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

次回調査の公表予定

2026 年 5 月の発表は

2026 年 4 月 30 日(木)午前 9 時

SUMMARY

2026 年 4 月の飲食料品値上げは、合計 2798 品目となった。
食品分野別では、マヨネーズやドレッシングなど「調味料」(1514 品目)が最も多かった。
値上げ要因では、特に原材料などモノ由来の値上げが多くを占めた。
当面は前年を大幅に下回る小康状態が続くものの、円安・原油高・エネルギーなどのコスト増が
長期的・複合的に発生すると、年後半に値上げラッシュが再燃する可能性がある。

株式会社帝国データバンクは、2026 年 4 月以降における飲食料品の値上げ動向と展望・見通しについて分析を行った。

[注]

品目数および値上げは、各社発表に基づく。また、年内に複数回値上げを行った品目は、それぞれ別品目としてカウントした
値上げ率は発表時点における最大値を採用した。なお、価格据え置き・内容量減による「実質値上げ」も対象に含む

2026年4月の値上げは2798品目、年内初のラッシュへ

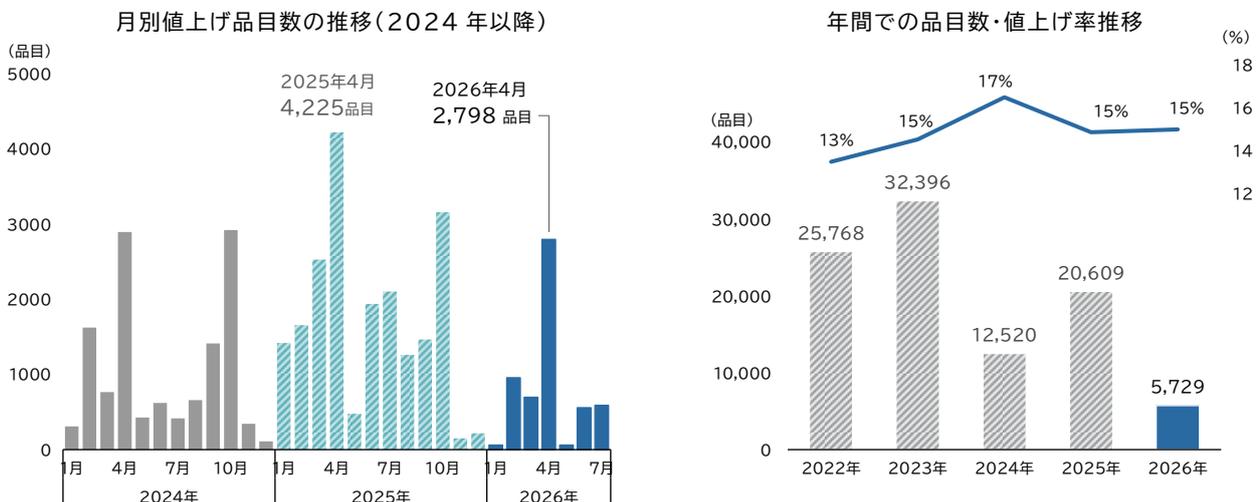
主要な食品メーカー195社における、家庭用を中心とした4月の飲食料品値上げは2798品目、値上げ1回あたりの平均値上げ率は月平均14%となった。単月の値上げ品目数が2千品目を超えるのは、2025年10月以来6カ月ぶりで、2026年に入ってから初の値上げラッシュとなる。ただ、4月としては前年(4225品目)を1427品目・33.8%下回るほか、調査を開始した2022年以降でも4月としては2番目に少ない水準だった。飲食料品における値上げの勢いは、前年に比べて小康状態で推移した。

2026年4月の値上げを食品分野別に集計すると、マヨネーズやドレッシング類を中心とした「調味料」(1514品目)が最も多かった。「加工食品」(609品目)は、即席麺やカップスープ、缶詰製品などが中心だった。「酒類・飲料」(369品目)は、ウイスキーや焼酎、輸入ワインが対象となった。このほか、「原材料」(259品目)では特に食用油で多くみられた。

2026年の値上げは、1~7月までの累計で5729品目となり、年間の平均値上げ率は15%に達した。年間の値上げ品目予定が1万品目を超えていた前年同時期(2025年3月31日時点、1万1707品目)に比べ、2026年3月31日時点では予定を含めて前年比5割減ペースでの推移となった。ただ、菓子類などで「減量値上げ」が散見されるほか、コメをはじめ原材料高の影響で価格を引き上げるケースが多かった。さらに米国とイスラエルによるイランへの攻撃で中東地域の地政学的リスクが高まっているほか、原油供給の不安定化による包装資材やエネルギー高への警戒感もここに来て高まっており、鈍化傾向にあった値上げの動きが、年後半に再び強まる可能性がある。

値上げ要因では、特に原材料などモノ由来の値上げが多くを占めた。「原材料高」の影響を受けた値上げは99.8%となり、集計を開始した2023年以降で最多だった。値上げ要因で前月から上昇したものは、電気・ガスなどの「エネルギー」(60.0%)、トラックドライバーの時間外労働規制などが要因となった輸送コストの上昇分を価格に反映する「物流費」(72.9%)、「円安(為替の変動)」(11.7%)の4要因だった。なかでも「円安」は前月(3.3%)から大幅に上昇した。他方、「人件費」由来の値上げは52.7%を占め、過去4年で最高水準での推移となったものの、前月からは低下した。「包装・資材」(68.8%)も前月を下回ったものの、パッケージやトレーなどの値上げによる影響を受け、年間としては過去4年間で最高水準での推移となった。

月別値上げ品目数 推移(2024年以降・2026年3月31日時点)



[注] 主に全国展開を行う上場・非上場の主要195社(当時の)の2022-26年価格改定計画。実施済みを含む。品目数は再値上げなど重複を含む

2026年の見通し:

「値上げ」一服に不透明感 年後半にラッシュ再燃の可能性

2026年の値上げは、春先にかけて前年を下回る水準が続き、広範囲にまたがる原材料では記録的な不作や在庫不足を要因とした供給ショックによる値上げが一服傾向で推移した。他方で、政府による輸入小麦の売り渡し価格が4月1日に引き上げられるなど、1ドル160円にせまる円安水準の長期化が輸入食料のコスト高として反映されつつある。また、米国とイスラエルによるイランへの攻撃で急激に高まった中東地域の地政学的リスク、ホルムズ海峡の混乱による原油供給の不安・価格上昇など、飲食料品の値上げ動向にとって無視できないリスクが再び顕在化している。既にプラスチックフィルムやPET原料などに使用される石油由来の樹脂素材ではコスト上昇圧力が高まっているほか、今夏以降の上昇が見込まれる電力・燃料コスト、食用油でみられる世界的な需給のひっ迫にともなう価格上昇といった懸念材料も多い。

足元では、2025年から続く物流・人件費の上昇を受けた包装資材の値上げや、直接的な人件費の上昇を要因とした「粘着的」な値上げが主導しながら、当面は前年を大幅に下回る小康状態が続くものとみられる。ただ、中東の混乱に端を発した原油の調達難と円安の長期化による輸入物価の上昇、小麦などの穀物類や食用油の国際的な価格上昇で、包装・資材と物流、エネルギー、輸入原材料などのコストが複合的に上振れすると、幅広い飲食料品を対象に、年後半に値上げラッシュが再燃する可能性がある。

値上げ要因・食品分野別の品目数動向

値上げ要因の推移(品目数ベース)

	3月末発表時点			
	2026年		2025年	2024年
	1-7月累計	1-9月累計	1-12月	1-12月
原材料高	99.8%	97.8%	96.1%	92.2%
エネルギー	60.0%	61.3%	63.8%	60.6%
包装・資材	68.8%	58.8%	62.7%	68.5%
物流費	72.9%	81.8%	78.6%	68.1%
円安 (為替の変動)	11.7%	12.9%	12.4%	28.1%
人件費	52.7%	26.5%	50.3%	26.5%

[注] 値上げ要因には一部重複を含む

食品分野別の値上げ品目数(2023年~2026年)

	3月末発表時点					
	2026年		2025年		2024年	2023年
	品目数 (判明分)	値上げ率	1-12月 品目数	値上げ率	1-12月	1-12月
加工食品	1,889	13%	4,791	16%	5,757	11,838
調味料	2,037	16%	6,221	13%	1,715	8,052
酒類・飲料	977	19%	4,901	18%	2,652	6,175
菓子	475	15%	1,326	18%	1,307	2,270
乳製品	41	10%	1,423	9%	392	1,533
パン	0	—%	1,506	6%	108	1,663
原材料	310	13%	441	14%	589	865
合計	5,729	15%	20,609	15%	12,520	32,396

[注] 2026年は1-7月の判明分

参考：月別の値上げ品目数推移（～2026年7月）

年月	食品分野別							単位:品目	
	合計	加工食品	調味料	酒類・飲料	菓子	乳製品	パン	原材料	
2022年	25,768	9,468	5,953	5,063	1,967	1,225	1,494	598	
2023年	32,396	11,838	8,052	6,175	2,270	1,533	1,663	865	
2024年	12,520	5,757	1,715	2,652	1,307	392	108	589	
2025年	20,609	4,791	6,221	4,901	1,326	1,423	1,506	441	
2026年	5,729	1,889	2,037	977	475	41	0	310	
2024年	6月	623	329	30	37	138	80	0	9
	7月	418	82	4	199	75	4	40	14
	8月	661	319	56	60	143	2	29	52
	9月	1,414	757	193	135	191	99	39	0
	10月	2,924	686	301	1,362	237	100	0	238
	11月	344	126	80	23	103	10	0	2
	12月	109	91	7	0	11	0	0	0
2025年	1月	1,419	58	0	0	87	10	1,264	0
	2月	1,656	589	357	266	329	96	0	19
	3月	2,529	1,381	14	534	140	284	176	0
	4月	4,225	659	2,034	1,222	70	207	0	33
	5月	478	137	192	48	14	14	0	73
	6月	1,940	755	963	33	76	113	0	0
	7月	2,105	117	1,445	206	196	75	0	66
	8月	1,262	188	470	181	19	359	0	45
	9月	1,467	377	427	23	297	138	0	205
	10月	3,161	340	246	2,351	39	119	66	0
	11月	150	46	40	0	56	8	0	0
	12月	217	144	33	37	3	0	0	0
2026年	1月	60	13	17	14	1	0	0	15
	2月	958	307	0	298	308	9	0	36
	3月	696	312	72	224	57	31	0	0
	4月	2,798	609	1,514	369	46	1	0	259
	5月	61	16	0	7	38	0	0	0
	6月	559	92	434	16	17	0	0	0
	7月	597	540	0	49	8	0	0	0
前年(同月)比									単位:%
2022年	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2023年	25.7	25.0	35.3	22.0	15.4	25.1	11.3	44.6	
2024年	△ 61.4	△ 51.4	△ 78.7	△ 57.1	△ 42.4	△ 74.4	△ 93.5	△ 31.9	
2025年	64.6	△ 16.8	262.7	84.8	1.5	263.0	1294.4	△ 25.1	
2026年	△ 72.2	△ 60.6	△ 67.3	△ 80.1	△ 64.2	△ 97.1	△ 100.0	△ 29.7	
2024年	6月	△ 83.5	△ 79.6	△ 98.2	△ 60.6	△ 12.7	△ 116.2	△ 100.0	△ 95.4
	7月	△ 88.4	△ 90.2	△ 99.4	521.9	△ 69.0	△ 90.2	△ 97.5	△ 94.0
	8月	△ 44.8	57.9	△ 86.3	27.7	△ 20.1	△ 99.4	-	-
	9月	△ 34.2	39.9	△ 84.6	51.7	△ 10.3	153.8	-	△ 100.0
	10月	△ 38.5	△ 23.0	△ 1.6	△ 57.4	22.8	100.0	-	98.3
	11月	147.5	2420.0	105.1	△ 70.1	472.2	-	-	-
	12月	△ 83.9	9000.0	△ 98.6	-	120.0	△ 100.0	-	-
2025年	1月	357.7	△ 39.6	△ 100.0	△ 100.0	8600.0	66.7	-	△ 100.0
	2月	1.8	△ 8.4	△ 34.5	60.2	153.1	71.4	-	△ 77.9
	3月	229.7	211.0	△ 78.8	631.5	△ 6.0	711.4	-	-
	4月	45.8	△ 68.4	451.2	287.9	△ 44.4	-	-	-
	5月	11.9	41.2	-	△ 81.6	366.7	-	-	10.6
	6月	211.4	129.5	3110.0	△ 10.8	△ 44.9	41.3	-	△ 100.0
	7月	403.6	42.7	36025.0	3.5	161.3	1775.0	△ 100.0	371.4
	8月	90.9	△ 41.1	739.3	201.7	△ 86.7	17850.0	△ 100.0	△ 13.5
	9月	3.7	△ 50.2	121.2	△ 83.0	55.5	39.4	△ 100.0	-
	10月	8.1	△ 50.4	△ 18.3	72.6	△ 83.5	19.0	-	△ 100.0
	11月	△ 56.4	△ 63.5	△ 50.0	△ 100.0	△ 45.6	△ 20.0	-	△ 100.0
	12月	99.1	58.2	371.4	-	△ 72.7	-	-	-
2026年	1月	△ 95.8	△ 77.6	-	-	△ 98.9	△ 100.0	△ 100.0	-
	2月	△ 42.1	△ 47.9	△ 100.0	12.0	△ 6.4	△ 90.6	-	89.5
	3月	△ 72.5	△ 77.4	414.3	△ 58.1	△ 59.3	△ 89.1	△ 100.0	-
	4月	△ 33.8	△ 7.6	△ 25.6	△ 69.8	△ 34.3	△ 99.5	-	684.8
	5月	△ 87.2	△ 88.3	△ 100.0	△ 85.4	171.4	△ 100.0	-	△ 100.0
	6月	△ 71.2	△ 87.8	△ 54.9	△ 51.5	△ 77.6	△ 100.0	-	-
	7月	△ 71.6	361.5	△ 100.0	△ 76.2	△ 95.9	△ 100.0	-	△ 100.0